

2012年3月期 第1四半期決算説明会

質疑応答

Q. 上半期での業績見込については、第2四半期に大型案件が集中しているため達成可能とのことですが、そのためには営業利益率についても前年同期比大きく改善することが前提となります。この営業利益率増加の理由について教えてください。

A. 第2四半期における営業利益率が増加する点については、ソフト開発とシステム販売とに区分してそれぞれご回答させていただきたいと思っております。

まず、ソフト開発についてですが、案件に着手した段階での利益率が低いのは大型案件に見られる通例であります。今後、開発工程が本格化していくにつれ、個別案件の採算性そのものが大きく上昇することと想定しております。つぎに、システム販売については、個別案件の動向および粗利益率が大きく異なりますので、最終的にどのような案件を扱ったかによって利益率に相当程度の差があります。現在予定している案件の中では、比較的粗利益率の高いプロダクト群での案件進捗を期待しております。また、弊社の粗利益率の低いビジネスにケーブルTV事業者向けの機器販売ビジネスがあります。この機器販売ビジネスは、地デジ対応で昨年度は大きく拡大しましたが、今年度は地デジ化が完了しておりますので、昨年度に比べて売上高が落ちてきております。

以上の事業動向により、第2四半期において比較的高い営業利益率を達成できるものと期待しております。

Q. 今後の受注動向についてですが、いつ頃から前年同期比増加に転じるのでしょうか。また、第2四半期以降に予定している大型案件の売上計上のピークがいつ頃になるかについても教えてください。

A. まず、受注動向については、第2四半期から前年同期比で増加傾向に転ずると想定しております。なお、第2四半期以降に予定している大型案件の売上計上のピークについては下半期以降とご理解いただければと思います。

Q. 第1四半期の業績については当初見込通りの進捗とのことですが、実際のところ、期ずれによる影響などの下振れ要因はあったのでしょうか。

A. 売上高については当初見込を若干下回る数字ではありましたが、各利益項目についてはすべて当初見込以上の進捗となっております。また、ご指摘の第2四半期へ期ずれしている案件についてはシステム販売の案件で一部ございますが、規模としては若干程度という状況であります。

Q. 受注についても第2四半期以降の回復を見られているとのことですが、当第1四半期における受注の減少についても想定通りだったのでしょうか。

A. まず、受注については売上高に連動する部分がございますので売上高をベースにご説明させていただければと思います。

ソフト開発における受注の減少については、複数の大型案件の完了による10数億円の売上高

減が大きく影響しております。一方で、この大型案件の完了をしてなおソフト売上高は前年同期比約5.4億円・受注高で同約7.6億円強の減少ということですので、10億円を超える大型案件の反動減の影響を除いてはプラスで通過しているという点では期初に期待した通りであります。また、大型案件におけるプロジェクトの要件定義までの段階では、受注高は金額的に比較的少額であり、今後これら大型案件の本格化に伴い、受注高が増加していくということも勘案しますと、予定通りの進捗であると考えられます。

- Q. システム販売において、第2四半期に製造業向け大型案件に加えて複数の学術向けシステム販売案件があるとのことですが、この学術向けについて具体的な案件の数や金額面を教えてください。また、第2四半期におけるシステム販売は、前年同期比で増加し、かつ上半期においては当第1四半期分も補完することのできる規模になりますでしょうか。
- A. システム販売における学術向けシステム販売案件についてですが、現時点で確定しているものが2件、各々数億円規模の案件でございます。また、今後幾つかの案件についても実現できると期待しております。尚、第2四半期単独では前年同期比で増加するものと想定しておりますが、上半期全てを補完できるかについては現時点では確実とは言えない状況と考えております。

Q. ERP (SAP、Oracle、ProActive) の実績を教えてください。

A. 第1四半期 (単位：億円)

	10年度	11年度
SAP	15	17
Oracle	9	4
ProActive	9	8
合計	34	29

- Q. CSKとの統合について、数値面での計画は中間決算の前後に発表されるという理解で宜しいでしょうか。現時点で進捗している内容があれば教えてください。また、統合におけるシナジーについてですが、現時点で今下半期あるいは短期的に想定できているものがあれば合わせて教えてください。
- A. まず、数値面での計画発表の時期については、経営戦略面も含めて事業計画として中間決算の際に発表する予定であります。

また、CSKとの統合における各種進捗についてですが、既に複数の共同提案を行っており、中にはほぼ受注に至っている大型案件もございます。これらに加えて、今後データセンター案件なども含めた共同提案を推進していく所存であります。現時点で数億円規模のビジネスを共同提案事業としてしっかりと展開していきたいと考える次第です。

統合後の事業シナジーについては、数値面については繰り返しになりますが、この中間決算の段階での事業計画発表時にお話しさせていただければと思います。

以上